

「106万円の壁」撤廃へ

パートやアルバイトの人が年収106万円を超えると、社会保険の加入義務が発生し、手取りが減る…これが「106万円の壁」です。
主に主婦や短時間労働者がこの壁を意識し働く時間を抑える傾向があり、労働力不足が深刻な中で社会的な課題となっていました。
そんな中、政府はR7.6月から3年以内にこの壁を撤廃すると決定しました。
柔軟に働きたい人が能力を発揮しやすくなる一方で、社会保険料の負担増という課題も残ります。
ひとつの問題を解消しようとするとき別の問題が生じ、結果会社や労働者の負担増が印象強くなってしまいがちですが…デメリットがあったとしても、メリットとのバランスがよい制度改革を求めたいものです。

＜106万円の壁が撤廃される理由、背景＞

① <u>労働力不足</u>	少子高齢化や人口減少が進んでおり、その中で働き控えも相まって労働力不足が深刻な問題となっています。
② <u>最低賃金の上昇</u>	近年の最低賃金の上昇に伴い週20時間以上働く年収106万円を超えるケースが増え、短時間労働者の社会保険加入要件(月額88000円)を説定している必要性が薄れていることも理由のひとつです。

メールマガジン配信希望の方は下記のメールアドレスまでご連絡くださいませ。